

つぎのことを共通の方法・ルールとして踏まえたうえで、あとは皆さんの工夫次第です。

用意するのはペットボトルと水草とメダカ、そして？

市販のペットボトル1本とそれに入れる水、水草、そしてメダカ1匹を用意します。共通の材料はこれだけです。メダカは野生のものが沢山いる地域ならそれを、いなければ購入することになります。水草は種類は問いません。ペットボトルに水と水草を入れ、中にメダカを放します。

でも、もちろんこれだけではメダカは生活できません。メダカが生きつづけるために、ではほかに何が必要でしょうか。光、底土、ほかの小動物も…。知恵をだしあって考え、ミニ地球の構成員に加えてください。

ペットボトルのフタをしめ、閉鎖空間とします。空気やモノなどは外部とのやりとりを絶ちます。例えばエサを外から与えたりエアを送ったり…といったことは一切ダメです。

外から入るのは光であり、他にはペットボトルが置かれている場所の温度が伝わる程度です。この条件でメダカが生活できる環境をいかに作りだすか。そこにこの「ミニ地球づくり」の意味があります。

ペットボトルのふたは閉じる

ミニ地球づくりのススメ

この「ミニ地球づくり」は、循環型社会や生態系の意味を理解するための、環境学習の一環として行うものです。そのためメダカ（や他の生物にも）に協力してもらうわけですが、実行にあたってはくれぐれ也十分に検討し、1日も長くメダカが生き続けられるよう、ベストと思われるプランで望んでください。

このミニ地球づくりの経験が、めぐりめぐって地域、地球環境保全の担い手づくりにつながると思う場合のみ、行ってください。

メダカたちに感謝と愛情を

これまでの実施例から

ペットボトルに近所の田んぼの土を入れ、底土にした。メダカは購入。オオカナダモ（水草）も購入して植えた。メダカは3ヶ月程度生存。

- 神奈川県立鎌倉高校 2001年2月5日～5月21日 担当：羽角章
- 神奈川県立金井高校 2001年2月10日～5月7日 担当：服岸富夫

- ・使う水が水道水の場合、事前に1日日なたに置き、塩素を抜く
- ・フタを閉める前に少し時間をおく
- ・日光をあてることは必要ですが、水温上昇には注意が必要です
- ・底土は田んぼなど微生物が多い方がよいらしい